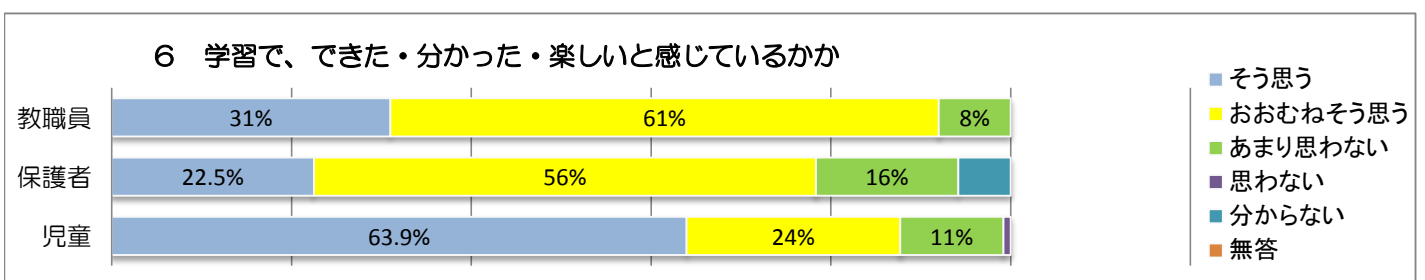
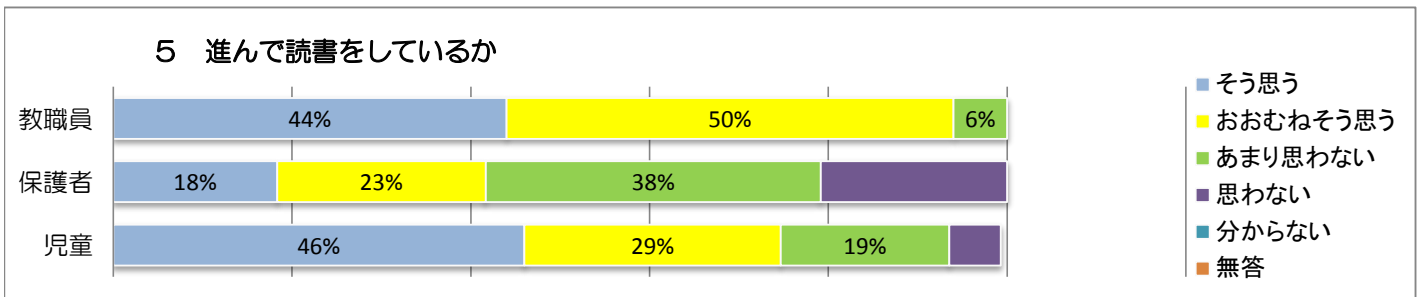
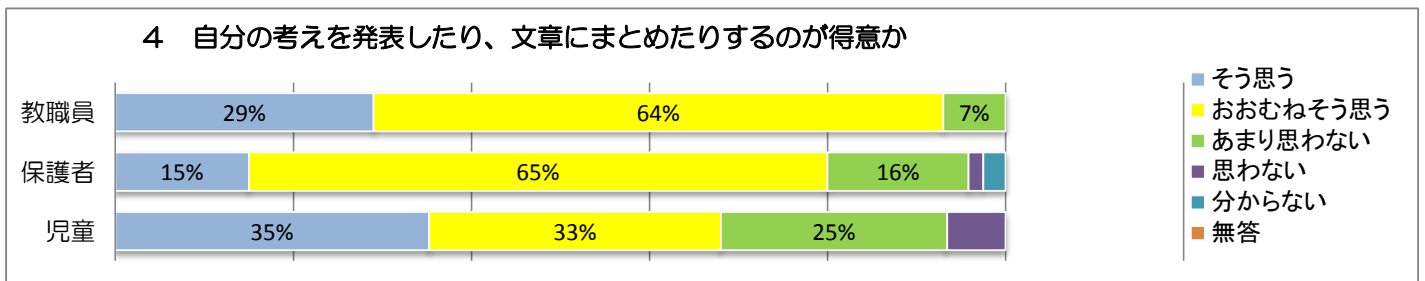
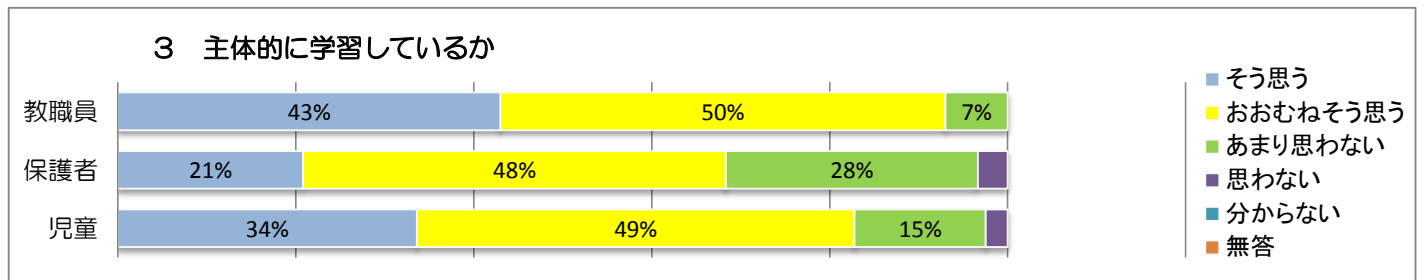
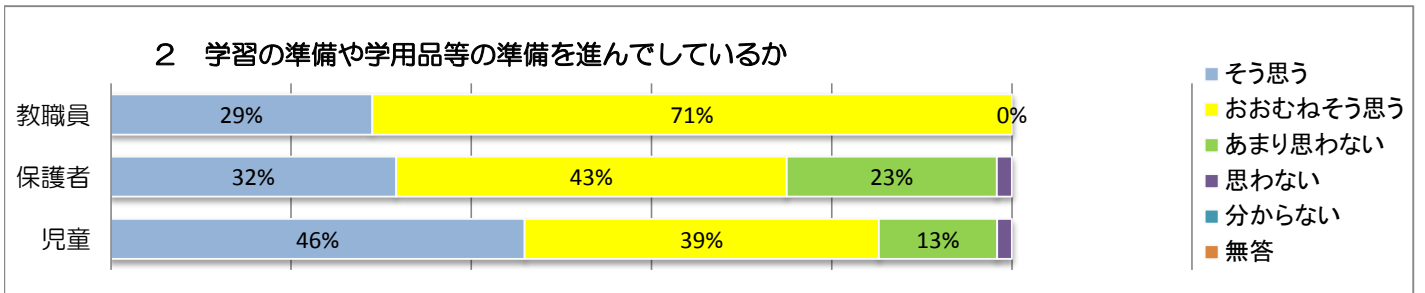
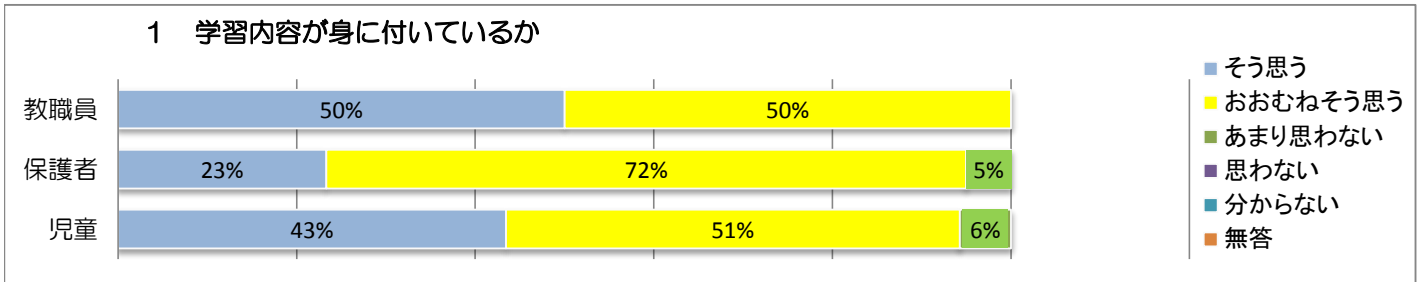
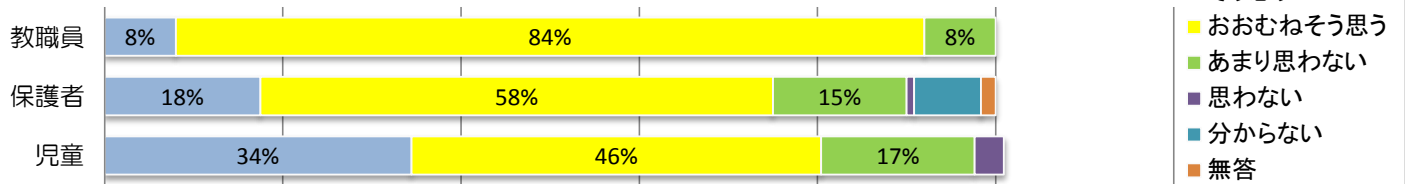


Ⅳ 教職員・保護者・児童の比較と考察

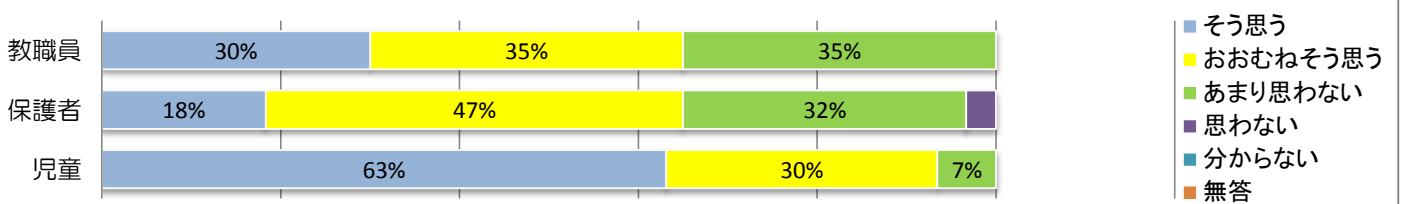
* それぞれの項目は、できるだけ同じような内容になるよう質問しています。簡単に比べることはできませんが、三者のおおよその傾向について比較してみました。児童は自分について、保護者はお子さんについて、教職員は自分や学校全体の指導について評価しています。



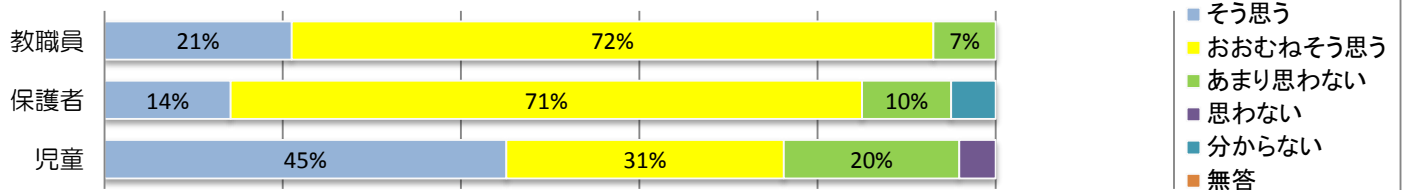
7 話し合ったり自分の考えを深めたりしているか



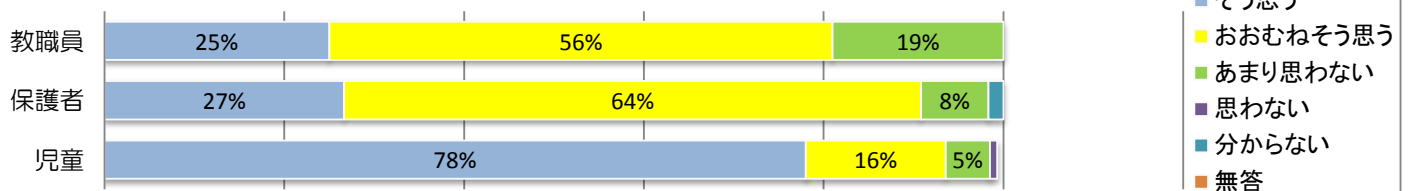
8 元気にあいさつや返事をしているか



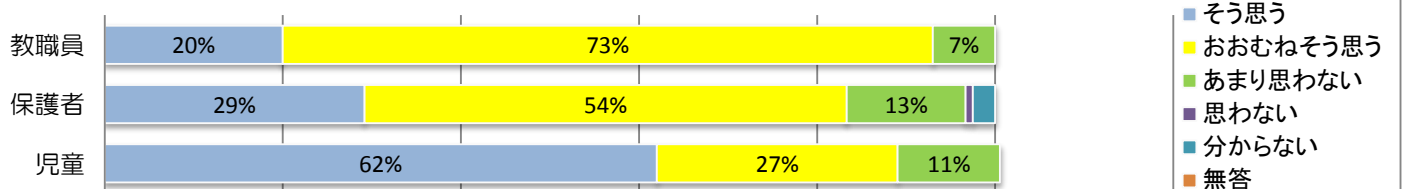
9 道徳の時間を大切にし、豊かな心が育まれているか



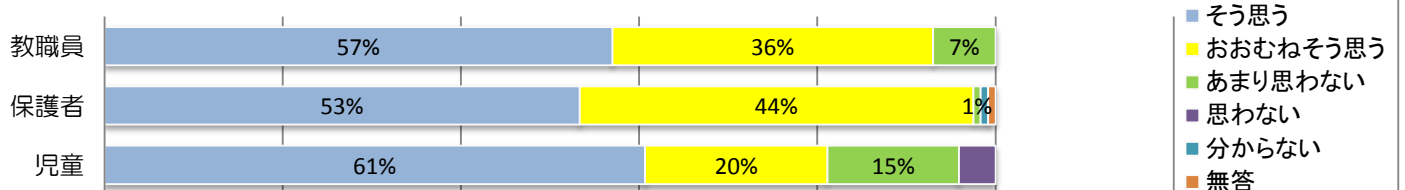
10 思いやりの心や協力し合う態度が育まれているか



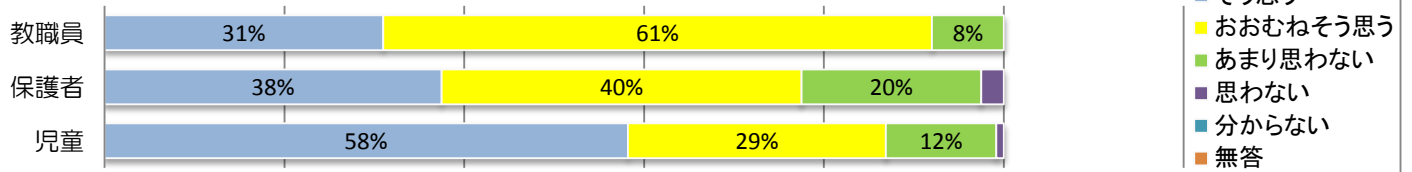
11 自己有用感が育まれているか



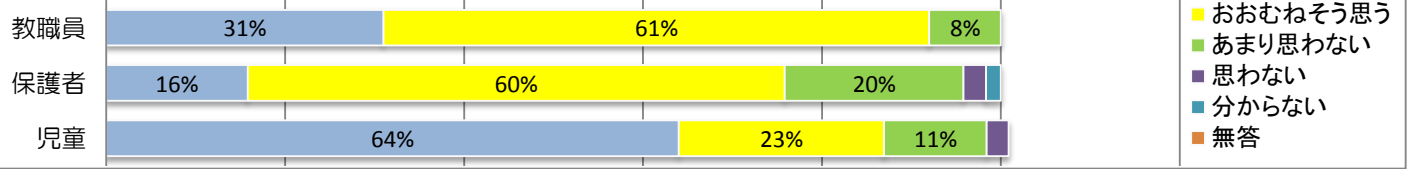
12 学校に来ることが楽しいか



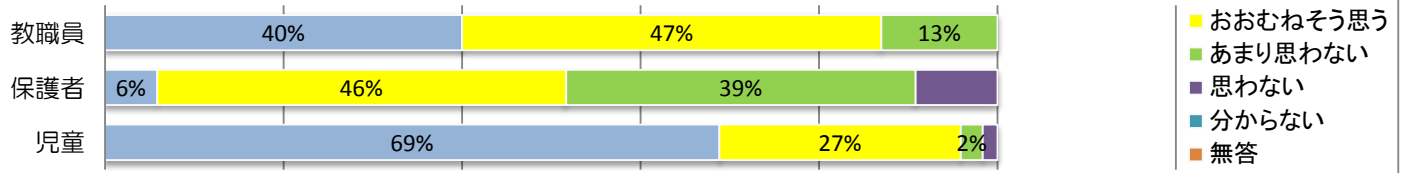
13 体育の時間や休み時間は進んで運動しているか



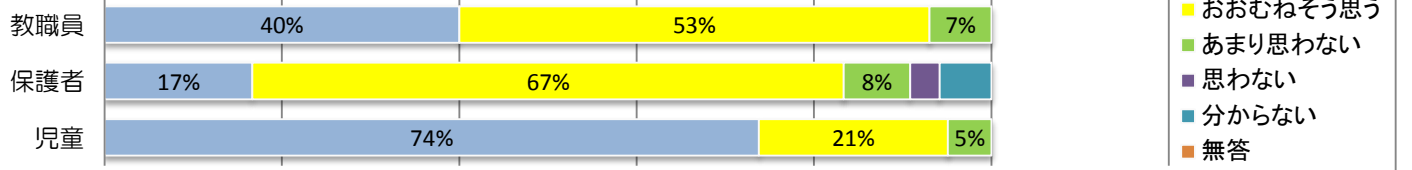
14 ものごとを最後までやりとげているか



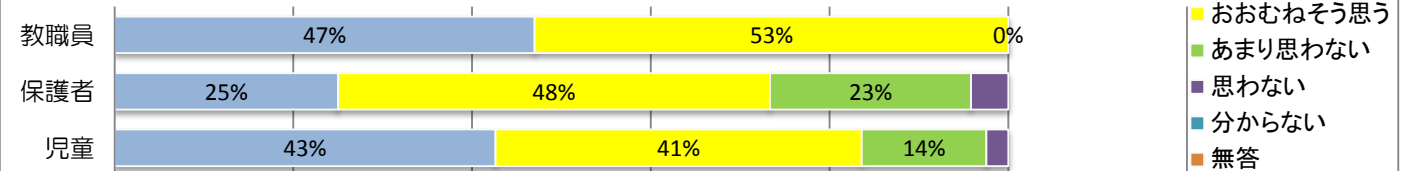
15 進んで仕事に取り組んでいるか



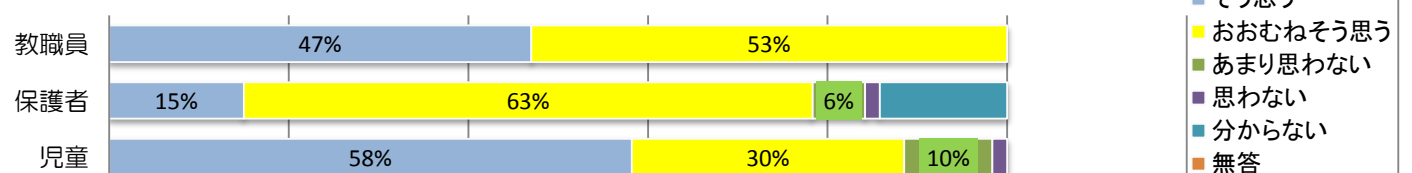
16 危機を回避する力は育っているか



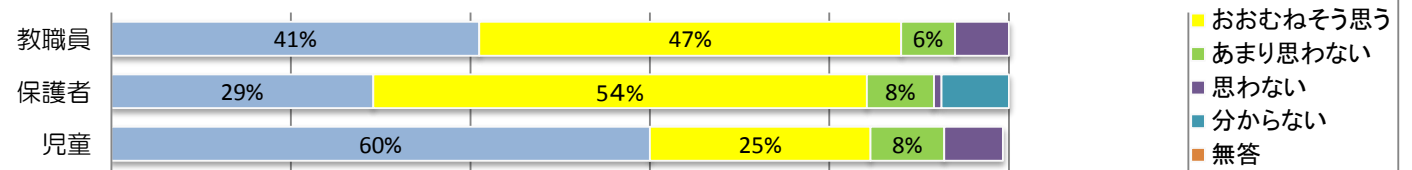
17 好き嫌いをしないように食べ、規則正しい生活を送っているか



18 いじめ防止の対策が行われているか



19 開かれた学校づくりが行われているか



<考察>

【全体として】

- おおよそ、昨年と同様の結果となりました。「そう思う」「おおむねそう思う」と回答した教職員の割合が高く、反対に、保護者の評価は厳しい傾向にあります。保護者の評価を真摯に受け止め、指導の工夫・改善に力を入れていきたいと思えます。

【考える子について】 項目1～7

- No.1の「学習内容が身に付いているか」については、「そう思う」「おおむねそう思う」の割合が、三者の差があまりなく高い評価となっています。反対にNo.5の「進んで読書をしているか」については、保護者と教職員・児童との差がかなり大きく、家庭で読書をあまりしていないことが考えられます。また、No.4の「自分の考えを発表したりまとめたりするのが得意か」については、「そう思う」「おおむねそう思う」の児童の割合が教職員や保護者より低く、児童がかなり苦手としていることが分かります。
「考える子」については、全体的に厳しい評価となった中で、No.6の「学習で、できた・分かった・楽しいと感じる」について、6割以上の児童が「そう思う」と答えており、うれしい結果となりました。今後も、今まで以上に、児童が、主体的に学び、学習が「できた・分かった・楽しい」と言えるように、授業の工夫・改善に努めていきたいと考えます。

【思いやりのある子】 項目8～12

- 「元気にあいさつや返事をしているか」と「思いやりの心や協力し合う態度」、「自己有用感が育まれているか」について、「そう思う」の割合が、児童と教職員・保護者で大きく差がついています。特に、「あいさつや返事」については、「おおむねそう思う」まで含めても、児童の評価がかなり高いです。児童ができていると感じていることは大変喜ばしいことです。今後も、自己肯定感を伸ばしつつ、本来の望ましい姿を具体的に示し、ほめて伸ばす指導をしていきたいと考えています。
また、「学校に来ることが楽しいか」について、「あまり思わない」「そう思わない」と回答した児童が約20%いました。勉強や友人関係での悩みが主な理由でした。今後も、年間2回行っている担任と児童1対1の教育相談や年間5回実施しているアンケート調査による支援のみならず、日常の見取りをしっかりと行い、児童一人一人に応じた細かな支援をし、誰もが「学校が楽しい」と元気に通えるようにしていきたいと思えます。

【元気な子】 項目13～17

- 「元気な子」の項目も、「そう思う」が保護者と児童とでかなりの差があり、特に、「進んで仕事に取り組む」については、60%も差があります。児童が、家庭での仕事をあまりしていない様子が伺えます。また、「規則正しい生活を送っているか」の「そう思う」の児童の評価が、他の項目と比べると低いです。学校と家庭が連携して、どの場面においても、進んで仕事をし、主体的に自分の生活習慣の改善ができる児童を育てていきたいと思えます。

